

京都南部地域  
行政改革推進会議

# 乙訓地域

# 分科会

# だより

vol.08



みんなが暮らしていく  
まちだから  
みんなが考えよう  
みんなのまちの将来を



西国街道は、かつて乙訓地域を南北に貫く重要なルートでした。街道は大山崎の離宮八幡宮門前（写真）に迂回するように走っています。この門前では淀川の渡し場と結ぶルートと接続していました。江戸時代、大坂からの物資は大山崎で陸揚げされ、この門前を通過して、乙訓地域へと運ばれていきました。乙訓の西国街道は、現在府道67号線として使われています。

乙訓地域分科会では、向日市・長岡京市・大山崎町の自治体合併について調査研究や情報提供を行っています。今回は、京都府内の合併市町のその後の状況の特集します。また、京都府内の住民参加のまちづくりの取り組みについて紹介しています。

## ◆もくじ◆

### 特集

どうなってるの？合併その後

― 京都府内の合併市町アンケートから  
合併した自治体は、いま

― 香川県丸亀市、三重県伊勢市  
住民参加のまちづくりを考えよう

東日本大震災に対する二市一町の支援状況

二市一町派遣職員からの報告

乙訓地域の文化財

2 6 8 10 11 12

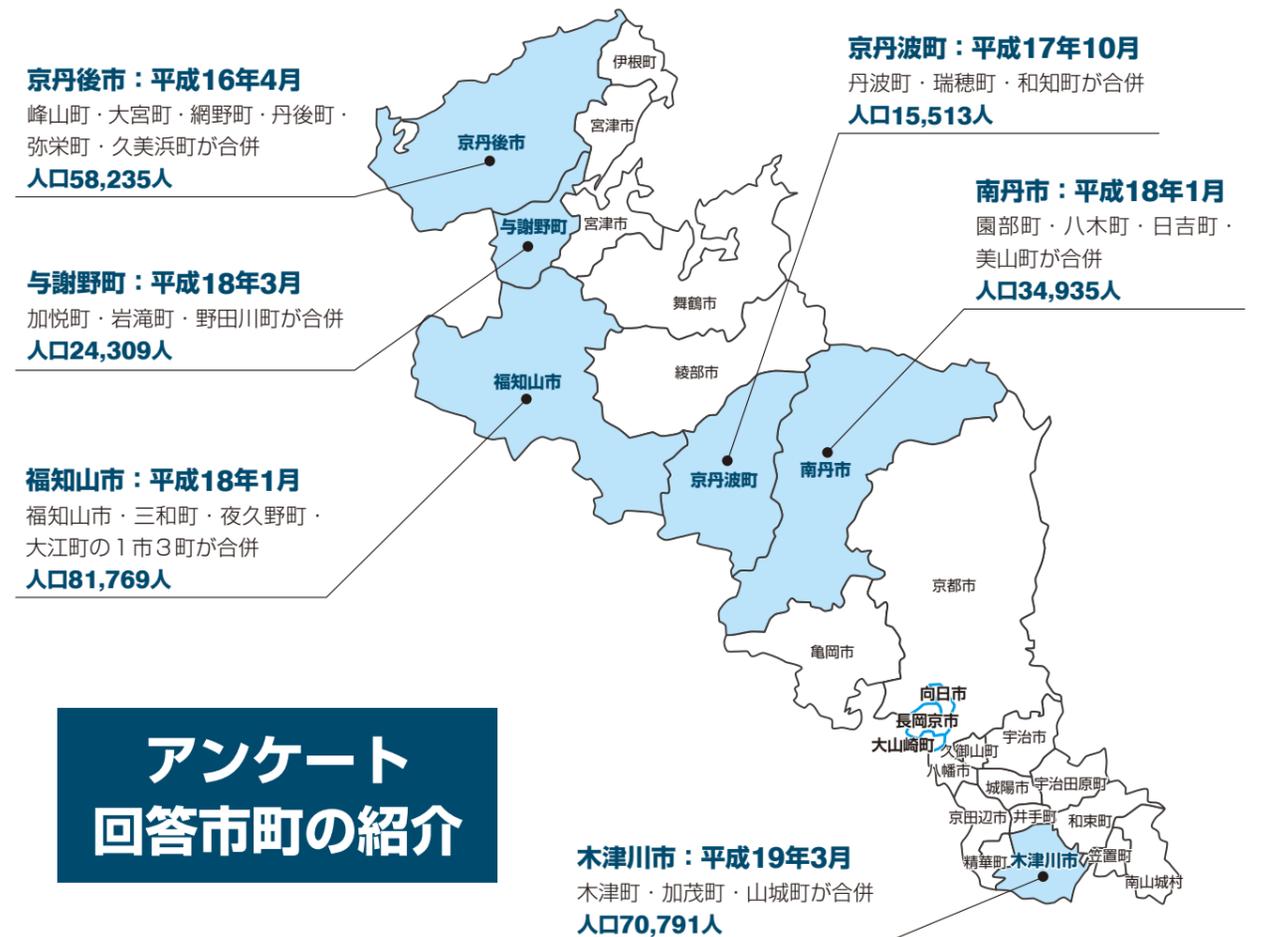
# 特集 どうなってるの？

## 合併その後

— 京都府内の合併市町アンケートから —

合併ラッシュから一定期間経過した今、合併後の自治体にはどんな効果や課題があり、どういった対応を行っているのでしょうか。京都府の「今後の高齢化・人口減少社会における府・市町村のあり方研究会」が平成23年3月に6市町に実施したアンケートをもとに考えます。

(平成23年10月1日現在の推計人口)  
\*福知山市は9月末現在



アンケート  
回答市町の紹介

### 市町村合併により生じた効果

合併で地域が広域化したり、行財政運営が効率化したことに伴い、住民にとってプラスの効果が生まれていることがわかります。

- ◆住民の利便性向上、住民サービスの高度化・多様化への対応
  - ・合併時に福祉施策等を高基準に統一したことによる住民福祉の向上（福祉医療など）（福知山市）
  - ・合併によるスケールメリットを生かし、下水道整備地域の拡大（京丹後市）
  - ・旧町の社会教育・体育施設の町内料金による共通利用（与謝野町）

- ◆広域的なまちづくり、地域のイメージアップ
  - ・歴史的資源・観光資源の共有による地域の知名度向上、イメージアップ（福知山市）
  - ・市内に工業団地を造成し、全国を対象にPRする企業誘致・企業立地活動の展開（京丹後市）
  - ・木津川市観光協会の設立（木津町、山城町には観光協会無し）（木津川市）
- ◆行財政運営の効率化・職員が担当する業務分野が広くなりすぎないなどの職員体制の強化
  - ・職員削減による人件費の抑制（福知山市、京丹後市）
  - ・支所機能を強化するため、地域支援担当を配置し、各区（長）との連携を強化（京丹波町）

### 市町村合併のデメリットへの対応

市町村合併には、効果と同時にデメリットも報告されています。それを少しでも減らすため、各市町で工夫した取り組みが行われています。

- ◆地域の歴史、文化、伝統の喪失、コミュニティ意識の希薄化への対応
  - ・市民力活性化推進プロジェクト事業補助金制度を設けて市民主体の幅広い活動を支援（京丹後市）
  - ・行政地域制度の設置・地域活動支援交付金の創設（木津川市）

- ◆中心部と周辺部の格差拡大への対応
  - ・旧町単位に市民局（支所）を置き、合併前配置職員数の半数以上を配置するよう配慮（京丹後市）
  - ・総合計画において地域のもつ特性や歴史を踏まえたゾーニングを設定（福知山市、京丹後市、南丹市）
- ◆役場が遠くなる、住民の声が届きにくいことへの対応
  - ・「意見箱」、審議会の公開等の情報公開制度と広聴制度の充実（福知山市、京丹後市）
  - ・市政・町政懇談会の地域ごとの開催（福知山市、南丹市、与謝野町）

- ◆住民サービス水準の低下、住民負担の増への対応
  - ・水道料金、国保税が合併に伴って急激な値上げとなる地域への激変緩和措置の実施（京丹後市）
  - ・住民票等の各種証明発行事務を郵便局において取り扱う「特定事務委託業務」の導入（南丹市）

### 合併のメリットやデメリットに関する住民からの意見

- ・まちづくりと称する活性化が、観光や商業に限定されがちになっていないか。子どもたちにとっても住みよいまちづくりを進めてほしい。
- ・合併協議会で作成された「新市建設計画」における収入見通しと実際の収入が著しく乖離している。そのため検証が必要ではないか。
- ・支所を廃止しないでほしい。
- ・合併の効果を最大限に発揮するため保育所・小中学校の適正規模・適正配置、庁舎の総合庁舎方式へ移行を。
- ・職員をもっと減らすべき（減らすなどの意見も有り）。

## 与謝野町

24区長をメンバーとして、町との連絡調整、町政に対する意見交換の場として、「与謝野町区長連絡協議会」を年2回程度開催。合併して24自治区と大所帯となったものの、行政と地域住民との連絡調整、意見交換の場として最も重要な組織となっています。

## 南丹市

旧町の「地域振興会」「自治振興会」を受け継ぎ、支所を中心に行政や各種団体等と連携・協働した組織運営を推進しています。エリアごとの独自施策で地域振興を図るうえで、地域の中心が支所となっています。市民の負担軽減、災害時の初動などの面でも有効です。

### 課題

支所の設置は二重行政の弊害を伴うこともあり、行政運営上の効率化という面では課題があります。

## 木津川市

地域審議会を設置し、地域から市への提言を受け付けています。地域審議会の設置により、地域間のバランスが保たれています。また、33の行政地域を設置した行政地域制度により、定期的に市への要望を出せる機会を設定しています。

### 課題

支所には一定規模の人員配置が必要であり、合併による人員削減効果を十分発揮できない面があります。また、地域審議会は合併の日から5年間と法に定められているので、その後の対応が課題です。

## 京丹後市

「京丹後市まちづくり委員会」(条例に基づき設置)の答申をもとに、市民局(支所)に自治活動、市民活動を支援する地域サポーターを設置。また、優れた知識、経験をもつ市民を地域づくりアドバイザーとして登録し、地域づくり活動を支援するなどの取り組みを実施しています。

### 課題

まちづくり委員会からの答申、意見等をいかに市の施策に反映してまちづくりを推進していくかが今後の課題です。

## 福知山市

自治法上の支所を3支所設置。支所は、日常的な住民サービスの確保と広域的な地域振興の拠点となっています。「元氣出す地域活力支援事業」や「ふくちの農山村応援事業」などの地域振興施策を実施。また、旧町の特徴ある地域資源を活用した振興施策を実施しています。

### 課題

合併による住民サービスの低下を避けるため、支所を本庁のサテライトと位置づけ、地域拠点として旧町域を超えた活用を図る必要があります。

合併後の地域振興施策として、周辺部への対応は欠かせません。日々の住民サービスに対応する支所や、意見交換の場など、各市町はどのような工夫をし、どのような課題を持っているのでしょうか。

# 合併後の地域振興施策の状況 ～周辺部への対応方策～

## 合併に伴い、住民サービスの充実が図られた事例



子どもの医療費の一部を助成  
(京丹後市)

充実 (対象年齢を拡大)

高齢者住宅改修  
補助制度  
(与謝野町)

創設



市内全域に  
防災無線を整備  
(京丹後市)

活用



図書館蔵書の  
インターネット検索・  
予約システム (与謝野町)

活用

全小学校へガードマンを配置  
(木津川市)

充実

# 合併した自治体は、いま

視察レポート



丸亀市は平成17年3月に旧丸亀市、旧綾歌町、旧飯山町が旧合併特例法に基づき新設合併した自治体です。

人口は11万354人で、面積は111.80平方キロメートル（乙訓地域の約3.5倍）です。議員定数は、1市2町合併直後は34人でしたが、現在は、30人に減っています。合併直後の職員数は、1251人（旧丸亀市942人、旧綾歌町126人、旧飯山町141人、飯綾消防組合42人）でしたが、現在は964人です。

## ●合併の経緯

平成14年、中讃広域行政事務組合に構成2市7町による合併研究会が置かれ、広域合併を視野に入れた検討を開始しました。平成15年4月



三重県伊勢市は、平成17年11月に、旧伊勢市、旧度会郡二見町、旧小俣町、旧御園村が旧合併特例法により新設合併した自治体です。

人口が13万3527人で、面積は209平方キロメートル（乙訓地域の約6.3倍）です。議員定数は、1市2町1村合併前は78人でしたが、現在は28人に減っています。合併前の職員数は、1727人（旧伊勢市1418人、旧二見町103人、旧小俣町120人、旧御園村86人）で、現在は1444人です。

## ●合併の経緯

平成13年12月、旧伊勢市長が伊勢志摩地区広域市町村圏協議会14市町村に対し、合併協議場の設立と参画を要請しました。その後、協議を重ねた結果、平成14年8月に、旧伊勢市、旧二見町、旧小俣町、旧御園村の4市町村で合併協議会を設立するに至り、計37回の会議を重ね、平成17年11月に新「伊勢市」が誕生しました。

には、消防行政でつながりの強かった旧綾歌町、旧飯山町の2町と、旧丸亀市による合併協議会を設置。平成17年1月までの間に全19回に及ぶ協議を重ねた結果、同年3月22日に新丸亀市が誕生しました。

## ●合併に伴う行財政改革の効果

人件費の削減や事務事業の見直し等を行った結果、平成21年度までの5年間で、約125億円の歳出削減効果が得られました。さらには、使用料の見直し等によって約21億円の歳入が確保でき、合併当初の財政運営に大いに役立ちました。

合併後の新たな事業は市民のニーズを反映することに努め、小学校区を単位とした地域コミュニティの形成や、コミュニティバスの運行、ケーブルテレビ整備促進の対象範囲を、それぞれ市域全体に拡大しました。また、合併特例債を活用し、防災面での安全・安心対策にも取り組んでいます。市営の競艇事業もナイターレースを導入したことにより、経営健全化に向け歩みだしました。

## ●今後の課題

合併から6年以上がたった現在、旧丸亀市役所庁舎は本庁舎、旧町役場庁舎は支所として活用しています。



▲丸亀市役所。市民会館や生涯学習センター、保健福祉センターが隣接し、庁舎南に位置する市民広場は市民憩いの場となっています。



▲「扇の勾配」と呼ばれる美しい石垣の名城として全国的に有名な丸亀城。築城400年、現存する木造天守12城のうちの1つです。

課題は、新市移行後も旧市町の地域間に一部残るサービス格差や、図書館、福祉センターなど旧市町からそのまま引き継いだ公営施設が重複していることです。これらの課題を解決し、新市としての制度が整うまでには合併後10年かかる見込みですが、市民サービス向上のため積極的に行財政改革に取り組みられています。

## ●合併に伴う財政削減効果

特別職、議員等の人件費の削減とともに、諸組織の統合により、事務的経費、維持管理費が削減されました。ただし、旧町村においては県の負担であった諸経費が、新市の負担となるなど、合併による新たな経費負担も発生しました。

## ●市民の声

伊勢という知名度の高さによって、地域のイメージアップが図られ、まつり等を中心に合併相手先の地域との交流が増したとの声が出ています。合併を機に、新たな交通体系としてコミュニティバスが運行されるなど、住民サービスの向上が図られた一方、旧町村であった地域では、格差是正のため、都市計画税の徴収の開始や下水道料金の値上げなどが行われました。その結果負担感の増を訴える声もあがっています。

## ●今後の課題

まず、地域自治の推進や、新伊勢市としての一体感の醸成が必要となっています。さらに、現在、旧2町1村の庁舎を利用した3つの「総合支所」が、2課体制、正規職員10人程度で運営されています。一方、旧伊勢市から引き継いだ9つの「支所」は、正規職員1人、嘱託職員2人の計3人で運営されています。住民サービスの向上を目指しつつ、行財政改革推進の観点から、より効果的・効率的な行財政運営の検討が今後の課題となるところです。

冬至の伊勢神宮の宇治橋。伊勢神宮では、平成25年の式年遷宮にむけ、様々な行事が予定されています。



▲伊勢市役所（旧伊勢市役所庁舎）。この他、旧二見町、旧小俣町、旧御園村の庁舎を総合支所として活用中です。



## ●合併後の新たな事業

地域自治推進事業の一つとして、各小学校区単位に、市と市民のパイプ役となる職員（兼務）を配置し、行政情報の提供、地域情報の収集を促して、まちづくり協議会の設立を支援しています。その他にも、消防署御園分署庁舎新築事業



京 都 府 地 域 力 再 生 プ ロ ジ ェ ク ト

## 住民参加のまちづくりを考えよう

住民が自らの住みやすいまちづくりのための活動を行政と協力して行う取り組みは、京都府内、乙訓地域でもさまざまな形で広がっています。そうした団体を支援する「京都府地域力再生プロジェクト」から、いくつかの団体を紹介します。

### 「京都府地域力再生プロジェクト」とは？

人と人がつながった温かい地域社会を築き、京都の新しい魅力・価値の創造や、より質の高い公共サービスを提供する京都府の実現をめざし、平成19年度から行われています。地域住民が協働して自主的に、暮らしやすく魅力的な地域にしようとする「地域力再生活動」を京都府と市町村が連携して応援しています。

長岡京市

## おいしい食事と 元気を届ける「配食」

### 長岡京市配食活動協働プラットフォーム

配食活動とは、自分で調理することが難しい高齢者などに食事を配達し安否確認も行う、地域の見守り活動です。手作りの家庭の味を笑顔で届けたいと、市民同士の助け合いの気持ちから生まれました。高齢化や核家族化の進行により、配食活動への期待は今後も高

まると考えられます。市民による支え合いの配食活動が一層広がるよう、配食活動団体と市民、社会福祉協議会、行政で、ネットワークを組織しました。それぞれの持つ知恵や力を合わせて、配食のノウハウを伝える講座を開くなどの事業に取り組んでいます。



向日市

## 障がい者を対象とした そば打ち体験会の開催

### そばを楽しむ会

向日市内在住の定年退職者らでつくるそばを楽しむ会は平成21年3月、仲間内でそば打ちや試食を楽しむ目的で発足した団体。そば打ちを通じた社会貢献として、平成22年2月から障がい者を対象にしたそば打ち体験会を開催しています。

体験会はそば打ちをする機会の少ない障がい者に、その楽しさを

伝えるだけでなく、会員と障がい者の交流も深めることができま す。そば粉のこね方やめんの延ばし方、包丁の使い方などを会員が助言・指導し、終了後には自分たちで打っためんを味わう、参加者全員で楽しめるイベントとなっています。現在は一般の方向けの体験会も開催するなど、その活動の場を広げています。



大山崎町

## 地域のコミュニケーションを 図る居場所づくり

### 地域ふれあいの集い「たけのこ」

「たけのこ」は、昔の井戸端会議のように、ご近所さんがちよっと集まってよもやま話に花を咲かせ るような、地域に根差したコミュニ ケーションの場をもちたいと月 1回のペースでテーマを決めて開 いています。去年は、町内のお医者 さんを囲んで健康についての座談

会、ちよっとおしゃべり・ちよっ とお点前の会、毛筆でカレンダー づくりなどを開催しました。また、 ペットボトルキャップの収集を年 間を通じて行い、エコキャップ推 進協会を通じて、2年間でポリオ ワクチン47・5人分の寄付を行いました。



# 二市一町派遣職員からの報告

ここでは、京都府、関西広域連合、日本水道協会からの要請により、二市一町からそれぞれ被災地に派遣された職員から、現地での活動や被災地の状況などを報告します。

**向日市**

- 派遣先 福島県会津若松市
- 派遣期間 6日間
- 活動内容 避難所での保健予防活動
- 健康福祉部 健康推進課職員

震災から3か月が過ぎ、体育館で避難生活を送る方は25〜30人程度まで減っていました。

血圧についての問題が多く、ほとんどの人が高血圧で、20歳代、30歳代の人でも高血圧状態にあり、避難生活で身体に負担をかけている人が多いように感じました。食中毒予防の観点から生野菜がなかなかとれなかったり、保存食が多いという食事の問題や喫煙、精神的ストレスや不眠などさまざまな問題が複雑にからんで、高血圧に係っているのではと感じました。

また、これからの生活にみなさん不安を抱えられており、特に、「新しい生活はできるだけ同じ地域の人と共に」という思いを持っていても、みんな離れ離れの生活になつてしまう現実を受け入れなくてはならないようでした。今まで築き上げてきた地域がこの震災によって無くなり、新たに生活を作り上げ、地域に溶け込んでいくことはとても大変なことだろうなと感じました。



活動時に身につけていた応援バッジ

**長岡京市**

- 派遣先 福島県楳葉町役場会津美里町出張所
- 派遣期間 37日間
- 活動内容 各種証明発行事務・仮設住宅事務
- 総務部危機管理監 防災・危機管理担当職員

私は、福島第一原発事故の影響によって、福島県楳葉町役場に設置された会津美里町出張所に、約1月間派遣されました。そこで、仮設住宅事務を担当し、入居する方に鍵の引渡し等を行いました。仮設住宅に入られた方は、避難所にはなかった私的空間に喜び、子どもたちは敷地を駆け回り、徐々に日常生活を取り戻しつつありました。さらに、グループホームやケアハウスを建てる計画も進んでおり、被災者の方々の巻きこみ環境は、今後一層改善されるものと思われまます。また、行政の支援に加え、ボランティアによる子ども向けのレクリエーション活動の実施や、地域住民による物資の提供といった支援もあり、人々が手を取り合い助け合う重要性をあらためて痛感しました。



仮設住宅入居を手伝う職員とボランティア

**大山崎町**

- 派遣先 岩手県陸前高田市
- 派遣期間 7日間
- 活動内容 給水活動
- 健康福祉部 町民健康課職員

私達は、陸前高田市の沿岸部から4キロメートルほど内陸に入った、気仙川北側の竹駒地区で活動しました。沿岸部から離れているこの地区も、家や駅舎、多くの建物が破壊され、電柱も倒れ、がれきの山が一面広がる悲惨な光景でした。そのような状況の中で、最も感じたのが、現地の方々の「優しさ」でした。家が流された人、娘を亡くした人、どの方も大変な状況であるはずなのに、避難所となっている公民館やお寺、各家庭など、どの場所でも感謝していただき、温かく接していただきました。黙々とがれきの片付けを行っている方や家の中の掃除をしている方の被災に向き合い、やっていくしかないという雰囲気、逆にこちらが力をもらったような気がします。復興までまだまだ長い道のりだと思いましたが、また何かの形でできる支援を行いたいと思います。



給水活動の様子

# 東日本大震災に対する二市一町の支援状況

平成23年3月11日、東北・関東地方を襲った巨大地震と大津波は、各地域に甚大な被害をもたらしました。この震災で被災されました皆様にお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになりました方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。このページでは、東日本大震災に対する二市一町の支援状況について報告します。

## 【人的支援】

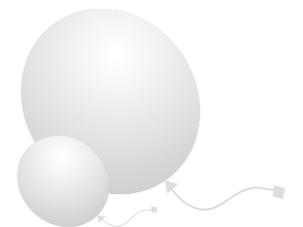
自治体名	職種	派遣先	期間(平成23年)	のべ人数	活動内容
向日市	一般職	岩手県大船渡市、 陸前高田市	4月7日~30日	18人	給水活動など
	保健師	福島県会津若松市、 南相馬市	5月2日~7日 6月15日~20日 8月28日~9月3日	4人	感染症予防など
	教員	福島県新地町	6月30日~7月6日	1人	教育支援活動など
	社会福祉協議会職員	宮城県多賀城市、 塩竈市、 山元町	3月30日~4月6日 4月11日~18日 5月1日~8日 9月14日~22日	4人	災害ボランティアセンター業務など
長岡京市	一般職	岩手県陸前高田市	3月14日~4月29日	26人	給水活動など
	社会福祉協議会職員	宮城県山元町	4月3日~9月30日	6人	災害ボランティアセンター業務など
	一般職	福島県楳葉町	4月27日~7月23日	4人	り災証明発行、 仮設住宅対応など
	保健師	福島県会津若松市、 南相馬市	5月6日~11日 5月26日~31日 9月4日~10日	3人	健康相談など
	手話通訳者	宮城県亘理町	6月24日~30日	1人	手話通訳など
	教員	福島県	6月25日~7月1日	1人	府の教育支援活動チームの一員として
大山崎町	一般職	岩手県陸前高田市、 大船渡市	4月4日~8日 4月11日~20日 4月24日~30日	6人	給水活動など
	保健師	福島県会津若松市	6月7日~12日	2人	健康診断など
乙訓消防組合	消防職員	宮城県南三陸町	3月11日~4月2日	65人	救助救急活動

## 【義援金受付状況】

(平成23年9月30日現在)

向日市	1,124万5,231円
長岡京市	2,073万8,933円
大山崎町	517万3,802円
合計	3,715万7,966円

※ その他に、支援物資を募集し、被災地にお送りしています。



# 乙訓地域の文化財

## 須田家住宅 / 向日市

須田家住宅は、西国街道、愛宕道（物集女街道）と丹波道の分岐点に位置します。「松葉屋」の屋号をもち、明治30年代まで、おもに醤油の製造・販売をしていました。昔、この辺りにはこういった商家がたくさんあり、京都近郊の町場として賑わっていました。

1987(昭和62)年、京都府の有形文化財に指定され、1991(平成3)年からおよそ6年の歳月をかけて修復されました。現在も、その趣のあるたたずまいで、訪れる人の心を惹きつけています。



## 旧石田家住宅 / 長岡京市

旧石田家住宅は店舗と住まいを兼ねた町家で、町家独特の風情をもち、西国街道筋の面影を今に伝えています。2000(平成12)年10月、規模が大きく江戸時代末期の町家建築の基準となるものとして、国登録有形文化財に登録されました。

明治以降、町医者などに利用されていたものを、後年になって石田家が購入、2003(平成15)年に長岡京市が取得し、人々が集い、文化を発信するサロン「神足ふれあい町家」として整備しました。

## 妙喜庵茶室「待庵」 / 大山崎町

妙喜庵は室町時代後期に東福寺の僧春嶽が開山しました。当庵には国宝の茶室「待庵」があり、千利休が唯一残した茶室であろうといわれています。待庵の室内は、二畳という極小の空間で、利休の非凡さがうかがえます。小間の茶室の原点といわれ、待庵以後このような形の茶室が一般化したものと考えられます。にじり口が設けられた第1号の茶室ともいわれています。



## 皆さまからのご意見をお待ちしています

●乙訓地域分科会では引き続き、広く合併についてご意見を集めています。郵便、電話、ファクス、Webサイトから、いずれでもかまいません。お待ちしております。

発行：平成23年12月

編集：京都南部地域行政改革推進会議 乙訓地域分科会 <http://www.otokuni-cbk.jp/>

### 【連絡先】

向日市・企画調整課 / Tel 931-1111 Fax 922-6587 〒617-8665 向日市寺戸町中野20  
長岡京市・政策推進課 / Tel 951-2121 Fax 951-5410 〒617-8501 長岡京市開田1-1-1  
大山崎町・総務課 / Tel 956-2101 Fax 957-1101 〒618-8501 大山崎町円明寺夏目3



この印刷物は古紙/リブ配合の再生紙と大豆油インキで印刷しています。